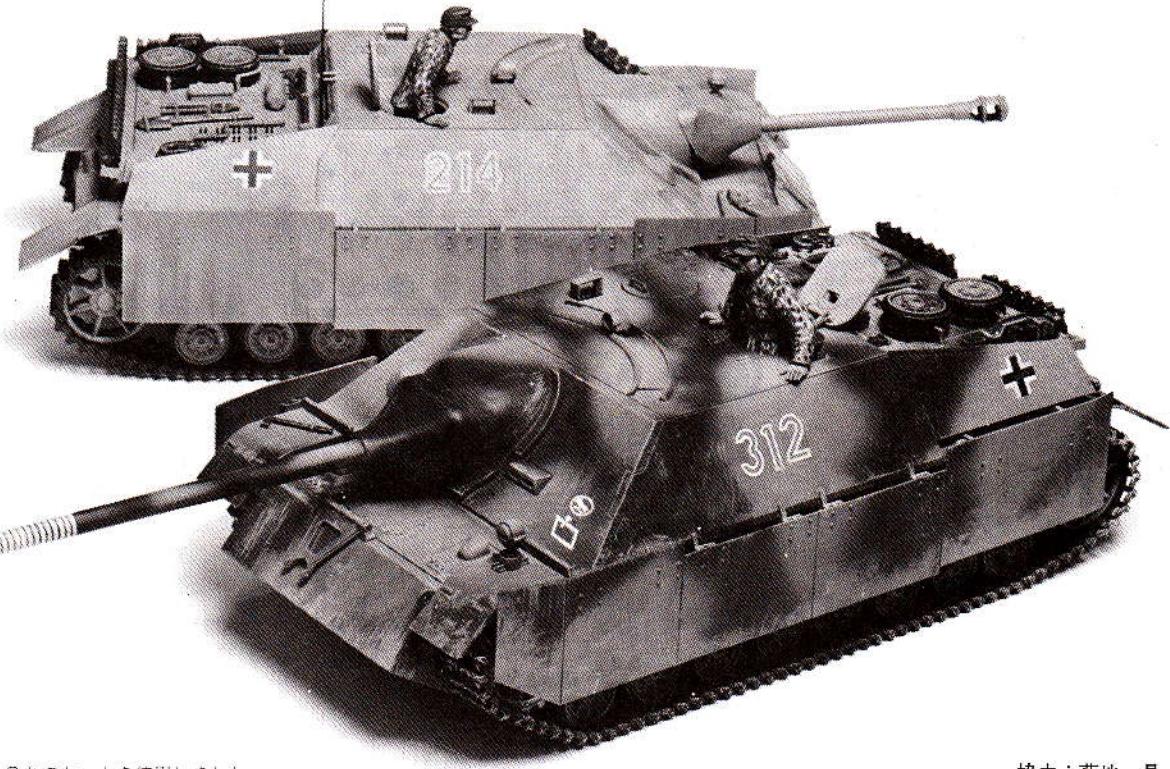


JAGDPANZER IV L/70 LANG

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.88
ドイツ・IV号駆逐戦車ラング

TAMIYA
静岡市恩田原3-7 〒422



写真は2台のセットを使用しました

協力：菊地 岳

兵器の発達はシーソーに似ています。特に戦争の当事国にとっては相手国の兵器の長所を貪欲に飲み込んで次々と新兵器を造り、互に相手を圧倒しようと、双方が上ったり下ったりしてまるでゴールというものがないからです。第2次世界大戦で見せたドイツとソ連の駆逐戦車開発競走はその典型的な例といえるでしょう。

1942年の秋、ドイツがIV号戦車のシャーシを利用して新型対戦車火器を造ろうとしていた頃、ソ連では新しい突撃砲戦車の設計が終っていました。ドイツIII号突撃砲のソ連版ともいえるSU 122自走砲だったので

SU 122



す。巨大な122ミリ榴弾砲を積んだこの戦車は、1943年の春から前線に姿を現わすことになります。

一方、ドイツでは半年間の試行錯誤の後、一台の新型駆逐戦車を誕生させていました。ヒトラーはこの実寸模型を1943年5月14日に視察しています。旋回砲塔がなく、まるで軍艦の装甲砲塔にキャタピラーをつけたような独特の形態は人々を驚かせました。この戦車はソ連のT 34の影響を強く受けていました。例えば、履帯をつなぐ連結ピンにはT 34同様に割ピンがなく、代って車体後部に連結ピン用案内板が取りつけられています。又、車体床面にはT 34のような脱

出口が備えられていました。このようにSU 122とIV号駆逐戦車は火器の違いはあってもデザインの思想は全く同じであったと言ってよいでしょう。

1943年10月20日、この新型戦車の第一号が完成し、テストが繰り返される間に早くもフォーマーク社では量産が開始されることになります。そして名称も正式に「IV号駆逐戦車F型」と命名されました。

IV号駆逐戦車の特長は車体上部とシャーシが一体となったケースメート型にふさわしく威圧的で力強い形態となっています。また車高はわずか1.86メートルしかなく、主砲の48口径39型75ミリ突撃砲の射撃位置は1.4メートルとまるで対戦車砲のみの低姿勢となっていました。副武装としては車体前方に特大のカバーフィットピストルポートが備えられ、42型機関銃で自由に射撃できるようになっていました。乗員はIV号突撃砲より1名少なく、4名となっています。

1944年春、この駆逐戦車は主に対戦車砲大隊に配属され、前線に出動しましたが、この頃、ソ連は新たな対戦車火器SU 85を登場させ再びドイツをリードしていました。ドイツはSU 85に対抗するため無理を承知で、切札ともいえる長砲身の70口径75ミリ突撃砲をIV号駆逐戦車に搭載することに決めたのです。この砲は、パンサー戦車が搭載した75ミリ砲と同等の威力がある優秀な砲でしたが、いざ装備するとなると予想した通りさまざまな問題を生じました。まず長砲身のバランスを取るために砲弾装填部にカウンターウエイトを取り付けなければなりませんでした。この際、砲口制退器は

廃止されました。次に、前部荷重が大きくなつたため耐荷重用の金属転輪を開発することが必要となつたのです。こうして初期のソ連軍KV重戦車用消音式金属転輪のアイデアがIV号駆逐戦車に生かされることになります。この金属転輪は最前部のボギーに使用されています。この長砲身75ミリ砲つきIV号駆逐戦車は「ラング」(長砲身の)

IV号H型



意味)又は「グーデリアン・エンチ」(グーデリアン将軍のあひる)というニックネームで呼ばれました。この戦車は、低い主砲の位置と前部荷重が大きいため、操縦性が悪く丘とボカージュの多いノルマンディー地方では移動に苦労したと記録されています。旋回砲塔を持ったIV号戦車と較べるとまさに「あひる歩き」だったのでしょうか。しかし、一担ボカージュの影に位置を占め、待伏攻撃を行えばタイガー戦車でもかなわないような威力を發揮したのです。この戦車は進攻作戦がとれなくなり防禦一方となつた戦争末期のドイツ軍の戦況をそのまま反映した車輌と言えるでしょう。

PARTS

A 部品

1. リヤホイル A
2. リヤホイル B
3. ロードホイル A
4. ロードホイル B
5. ファイナルカバー 右
6. ファイナルカバー 左
7. 上部軸輪 A
8. サスペンション 右
9. ドライブスプロケット A
10. ドライブスプロケット B
11. 上部軸輪 B
12. ファイナルカバー 左
13. サスペンション 左
14. 不要部品
15. 13. 15. 16. 17. 18. 不要部品

B 部品

1. 不要部品
2. スペアホイル A
3. オノ
4. ナットまわし
5. エアインテーク
6. 不要部品
7. 不要部品
8. スパナ
9. ワイヤーカッター
10. クランク
11. ジャッキ C
12. ジャッキ B
13. ジャッキ A
14. 消火器
15. ヘッドライト A
16. リヤフェンダー A
17. ベリスコープ
18. リヤフェンダー B
19. マフラー C
20. マフラー D
21. マフラー A
22. マフラー B
23. 不要部品
24. テールライト
25. シャベル
26. 不要部品
27. スペアホイル B
28. フック
29. 不要部品
30. 不要部品
31. 不要部品
32. マフラーサポート
33. リヤバネル 上
34. リヤバネル 下
35. 軸受け部品 A
36. キャップ
37. スプリング A
38. スプリング B
39. 軸受け部品 B 右
40. 軸受け部品 B 左
41. 不要部品
42. 不要部品
43. 不要部品

C 部品

2. アンテナ基部
3. 手すり
4. フック
5. 点検用ハッチ
6. フロントブレード
7. フロントブレード
8. リヤフック
9. フロントブレード
10. レンチ
11. 上部バーツ
12. 碓身基部 C
13. 碓身基部 A
14. 碓身基部 A
15. ドライバーベリスコープ
16. 人形台
17. フェンダー 左
18. ガンシールド A
19. ガンシールド B
20. 人形胴体
21. 人形左腕
22. スペアキャタピラ
23. キャタピララック
24. ローダーズハッチヒンジ C
25. ローダーズハッチヒンジ D
26. ローダーズハッチヒンジ A
27. ローダーズハッチヒンジ B
28. ローダーズハッチヒンジ
29. ハンドル
30. キャンノンドラム
31. キャンノンドラム
32. キャンノンドラム
33. キャンノンドラム
34. キャンノンドラム
35. キャンノンドラム
36. キャンノンドラム
37. キャンノンドラム
38. キャンノンドラム
39. ハンドルロック
40. ガントラベルロックヒンジ
41. フェンダーステー A
42. フェンダーステー B
43. フェンダー 右
44. フェンダー 左
45. スペアホイルラック
46. ジャッキ台
47. コマンダーステー A
48. コマンダーステー B
49. コマーダーズハッチヒンジ A
50. コマーダーズハッチヒンジ B
51. コマーダーズハッチヒンジ C
52. コマーダーズハッチヒンジ D
53. ベリスコープ
54. 車体上部

D 部品

1. 防弾板 左
2. 防弾板 右
3. 防弾板部品
4. 防弾板ステー A
5. 防弾板ステー C
6. 防弾板ステー D
7. 防弾板ステー E
8. 破身 A
9. 破身 B
10. スペアキャタピラ
11. 防弾板 右

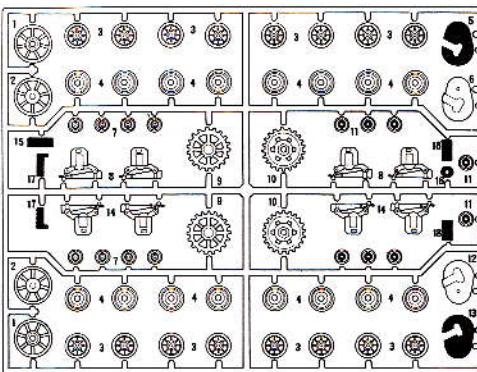
《作る前にお読み下さい》

★お買い求めの際、または組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始められた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

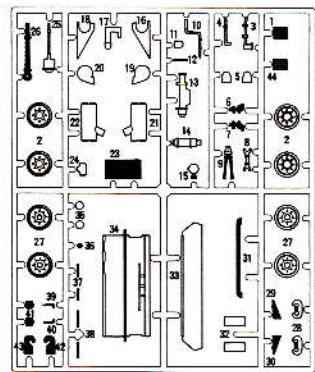
★タミヤからはビン入りの接着剤タミヤセメントが別売しております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

★部品をランナー（枝）から切りはなす場合には手でもぎとらないで、ニッパーやナイフ等でていねいに切り取って下さい。

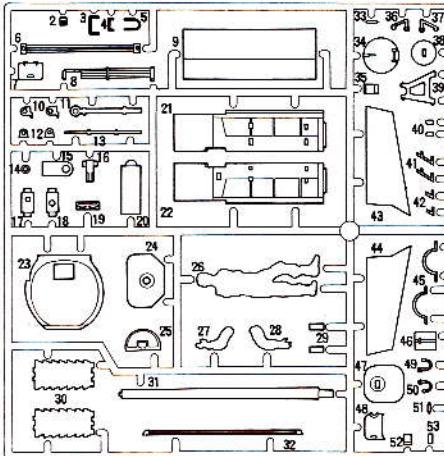
A 部品



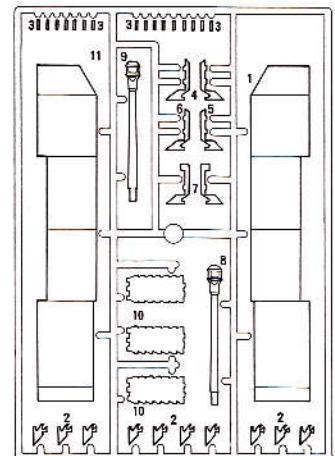
B 部品



C 部品

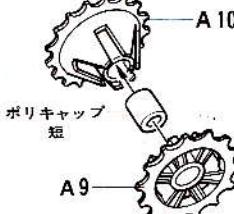


D 部品

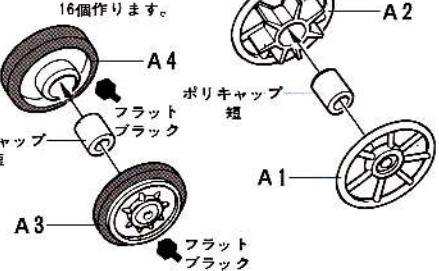


1 ホイールのくみたて

〈ドライブスプロケット〉
2個作ります。

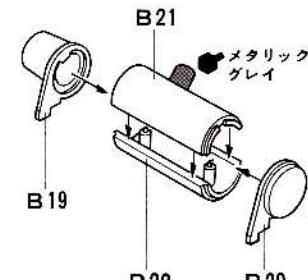


〈ロードホイール〉
16個作ります。
〈リヤホイール〉
2個作ります。

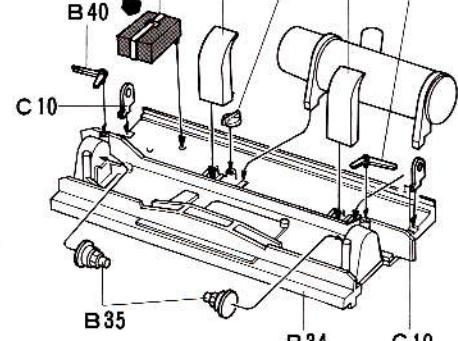


2 リヤバネルのくみたて

〈マフラーのくみたて〉

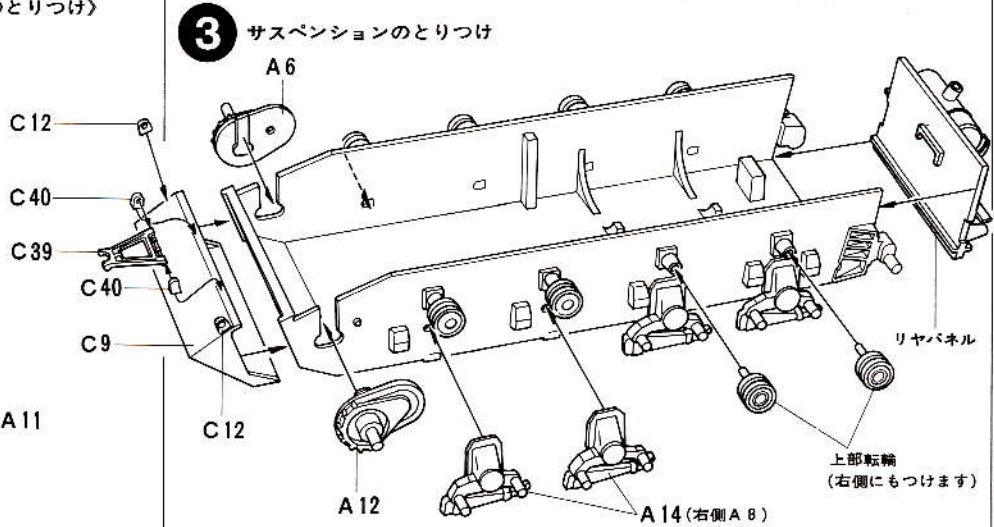
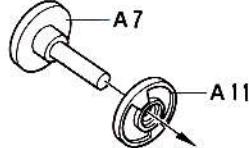


レッドブラウン
C46 B32 B36 B32 B39



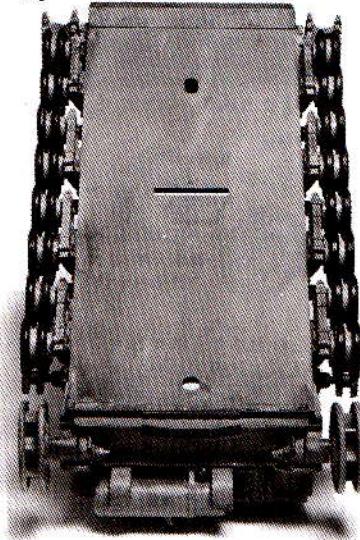
3 〈サスペンションのとりつけ〉

〈上部転輪のくみたて〉
8個作ります。



4 〈ホイルのとりつけ〉

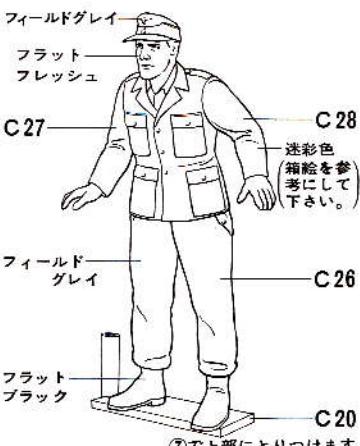
各ホイルは接着せずに押し込みます。



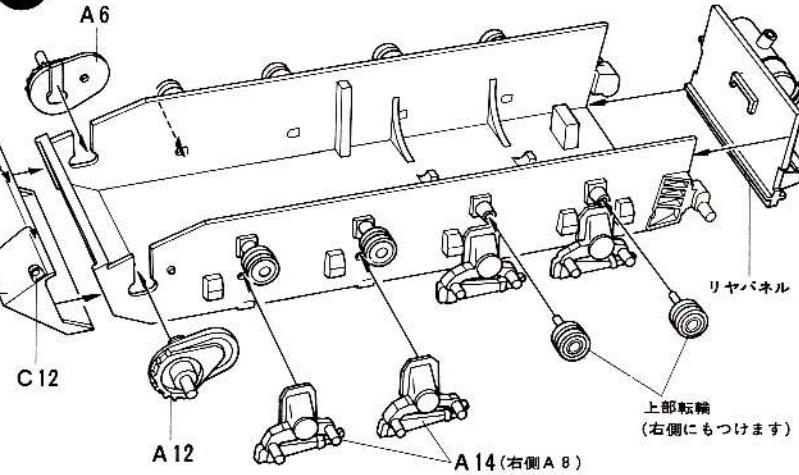
6 〈上部部品のくみたて〉

砲身基部とハッチにはそれぞれ、動かせる部分があります。可動部に接着剤がつかないよう注意してください。

〈人形のくみたてと塗装〉

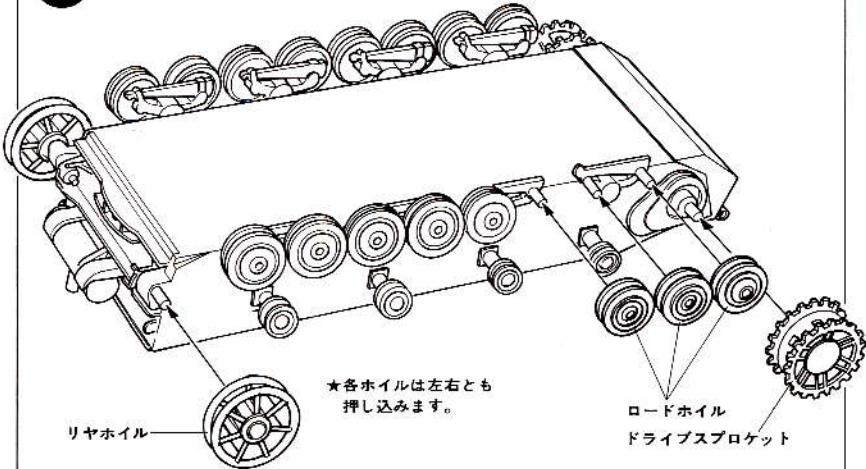


3 サスペンションのとりつけ

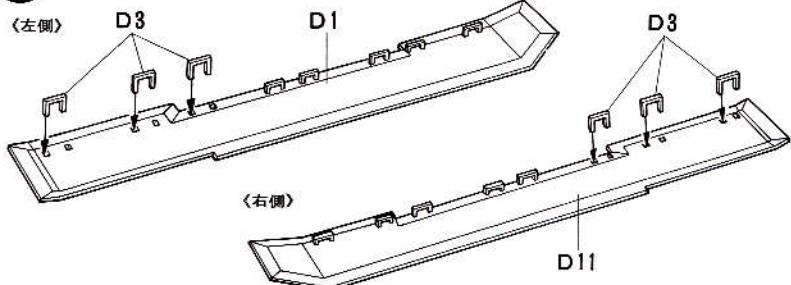


4 ホイルのとりつけ

★各ホイルは左右とも押し込みます。

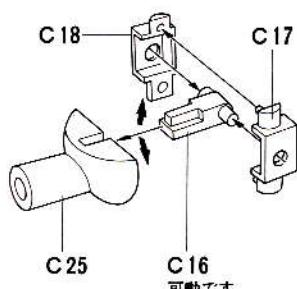


5 防弾板のくみたて

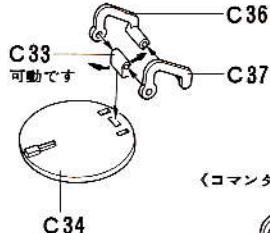


6 上部部品のくみたて

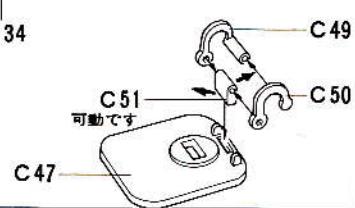
〈砲身基部〉



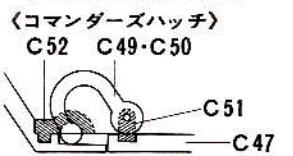
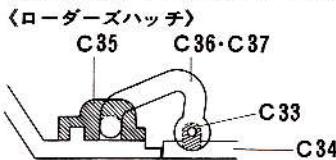
〈ローダーズハッチ〉



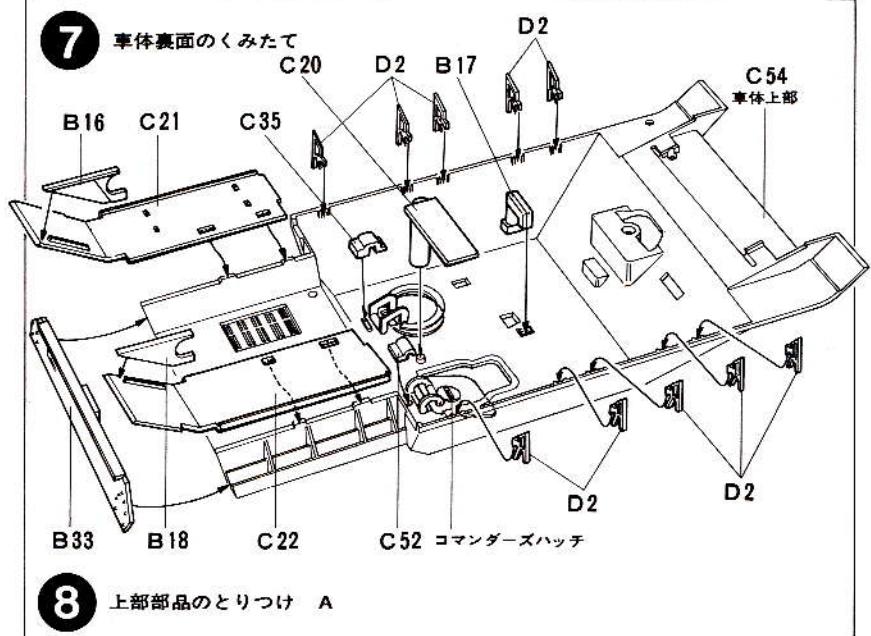
〈コマンダーズハッチ〉



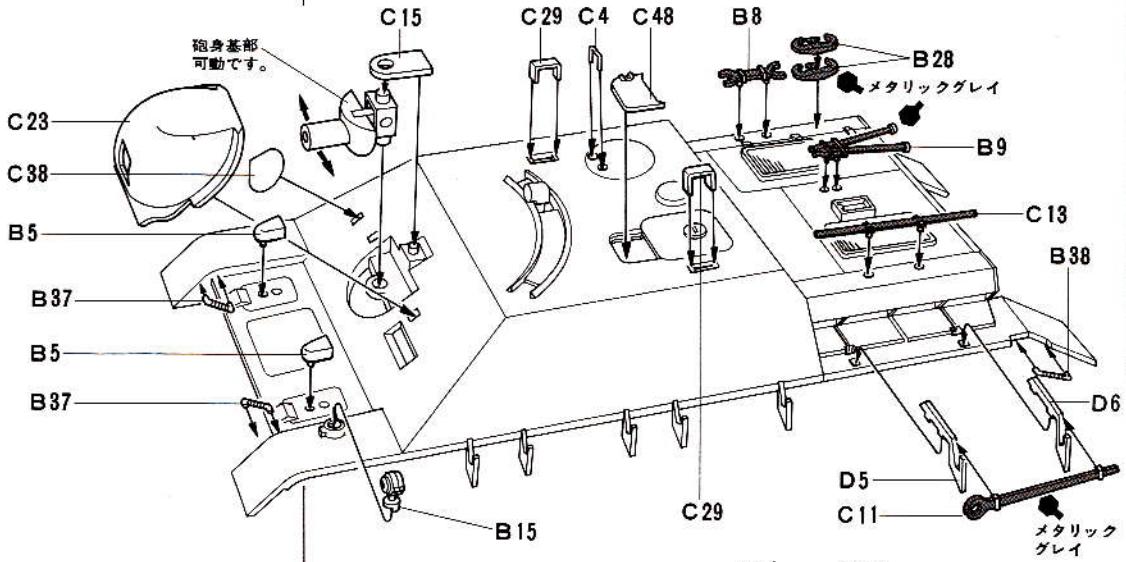
7 《車体裏面のくみたて》
ローダーズハッチとコマンダーズハッチは開閉できます。下図を参考に開閉できるようくみたて下さい。



8 《上部部品のとりつけA》
砲身基部は上下・左右に動かせるようとりつけます。C15でおさえて下さい。

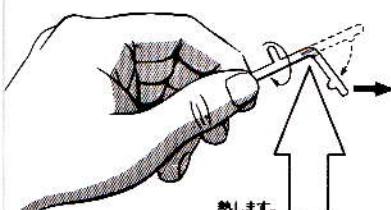


8 上部部品のとりつけ A



9 《砲身のとりつけ》
砲身は70口径75mm砲と48口径75mm砲のどちらかが選べます。

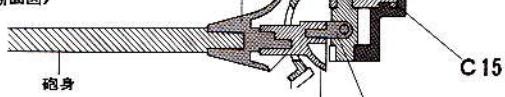
《アンテナの作り方》



★ランナー(部品の付いていたワク)を利用して作ります。上図のように熱し曲ったらはじを引っ張ってのばします。冷やしてからてきとうな長さに切って下さい。

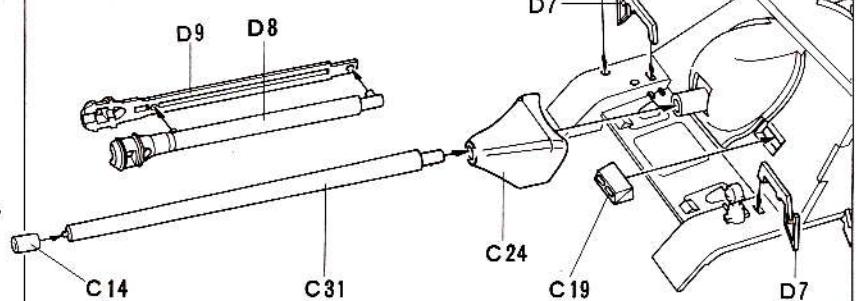
★アンテナは火を使って作りますから充分注意して作りましょう。

(砲身部断面図)



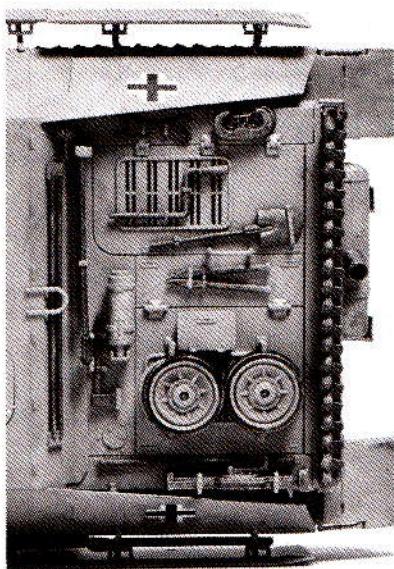
9 砲身のとりつけ

★砲身はどちらか選んでとりつけて下さい。

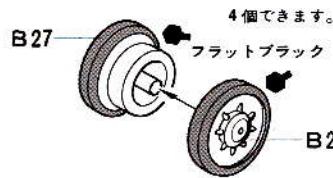


11 《上部部品のとりつけC》

各部品はとりつけ位置を確かめてからとりつけて下さい。下の写真は各パーツの取付写真です参考にして下さい。



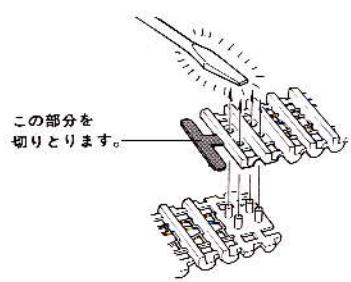
《スペアホイールのくみたて》



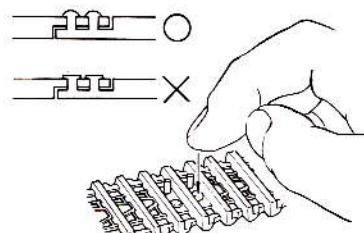
《キャタピラの上手な焼き止め方法》

①キャタピラの不要部を切りとり、両端のピンをはめこみます。

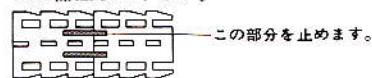
②熱したドライバーやハンダゴテでピンをそっと押しつぶして下さい。



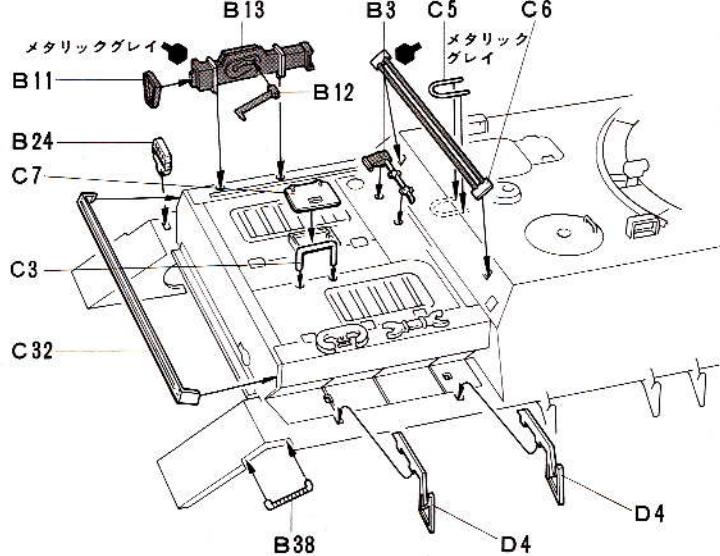
③すぐに指で焼きつぶしたピンをおさえしっかりと固定します。つぶした頭は丸くなるようにして下さい。



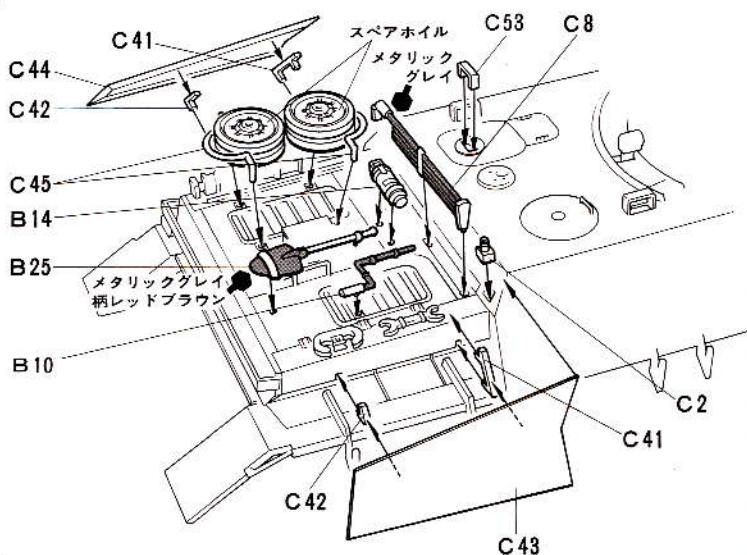
④キャタピラが切れたり焼き止めが弱い場合には図の位置を黒糸かホッチキスで補強して下さい。



10 上部部品のとりつけ B

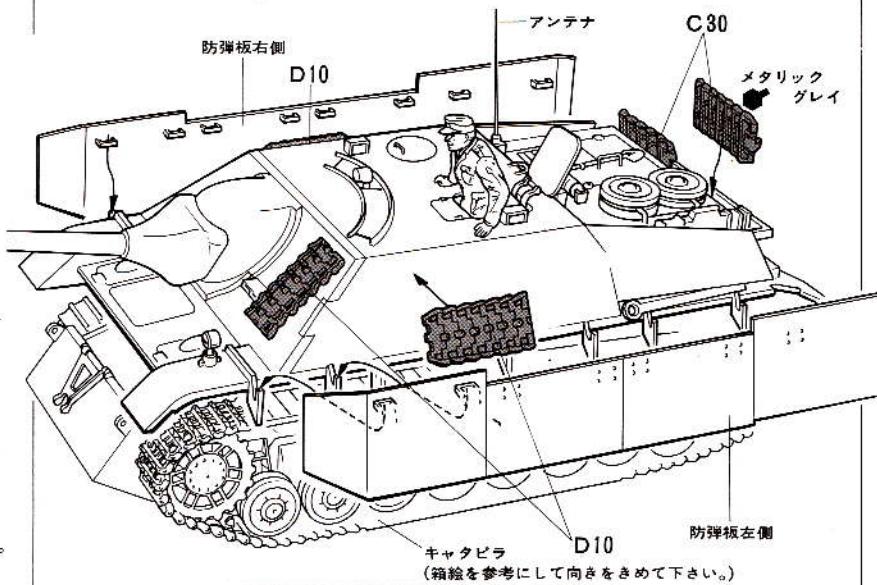


11 上部部品のとりつけ C



12 上部と下部の接着

★上部と下部は接着して下さい。



PAINTING &

APPLYING DECALS

《IV号ラングの塗装》

IV号ラングの装備は1943年から開始されました、この年の2月18日、軍の通達により、今までのジャーマングレイを基本色とした塗装はすべて廃止されダークイエローの単一色が基本となりました。ですからIV号ラングの基本色もダークイエローと考えられます。その他色（迷彩）は、戦域により現地軍が基本色の上にかきねて塗ったもので、その迷彩のパターンは一定ではありませんでした。色はダークイエローの基本色の上に、レッドブラウン、ダークグリーンが、はけや、スプレーガンで自由に迷彩されました。

★各部の塗装はタミヤカラーで指示しています。

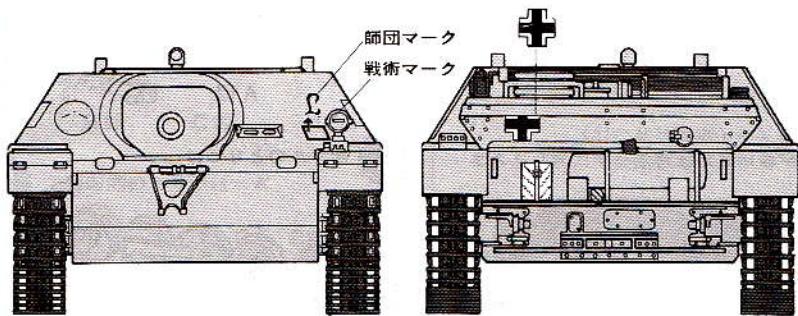
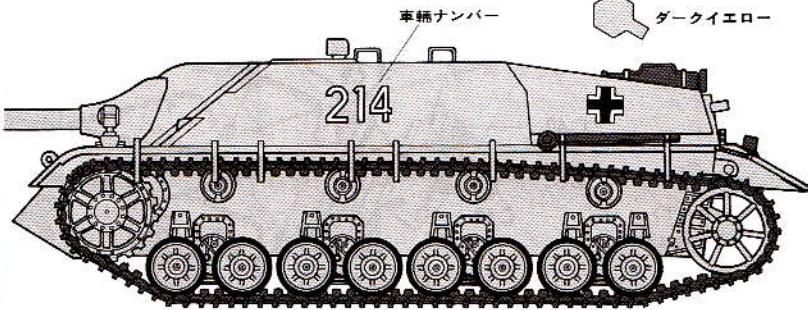
《IV号ラングの車輛ナンバー》

IV号ラングにも他のドイツ戦車と同じように車体上部の左右に車輛ナンバーがつけられました。このナンバーは例のように左から中隊、小隊、車番をあらわします。対戦車大隊は通常3個中隊からなり、各中隊は2個小隊で1个小隊は4輌の車輛が配属されました。ですから、IV号ラングの車輛ナンバーは中隊が1~3、小隊が0~2、車番が1~4となりこれらの数字の組合せとなります。

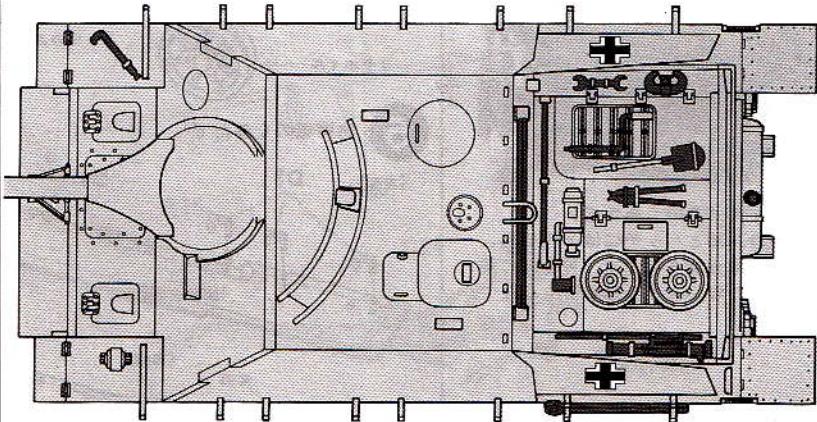
例：102 第1中隊 中隊本部 2号車

例：214 第2中隊 第1小隊 4号車

《IV号ラングの塗装とマーキング》



	戦車教導團		第9機甲師団		戦術マーク
	第2機甲師団		第116機甲師団		対戦車大隊 の戦術マーク



《IV号ラングの迷彩パターン》



ダークイエロー



ダークグリーン



レッドブラウン

